



地域の安全を守る 我ら鏡石町消防団



私たちが災害から守ってくれる消防団員

火災や地震、台風などのさまざまな災害は、いつ私たちの身に振りかかると分かりません。そんなとき、消防士とともに私たちを守ってくれるのが消防団員の私たちです。それぞれに職業を持ちながら、いざという時に備えて活動する消防団員。今月号では、地域を災害から守ってくれる消防団員の活動内容について紹介いたします。

町消防団の歴史

鏡石町消防団は、昭和23年の自治体消防発足に伴い、村消防団として組織され、昭和37年の町制施行と同時に現在の町消防団として誕生しました。

平成17年4月1日現在では、町内には団本部のほかに9分団が組織されており、それぞれの地域で防災活動のリーダーとして活躍しています。

現在、団員は大河原団長以下184人。これまでの消防活動が認められ数々の賞を受賞しています。最近では、平成3年に消防庁長官表彰筆頭、平成6年に福島県知事表彰、平成9年には、日本消防協会会長表彰筆頭など数々の賞を受賞しています。

団員数の推移 (4月1日現在)

年度	人数
H12	200
H13	203
H14	194
H15	192
H16	191
H17	184



いざという時のため日々鍛錬

消防団員のみなさんは、普段は一般の人たちと同じように自営業や会社員としてそれぞれの職業に就きながら、いざ火災などの災害が発生したときは、昼夜を問わず、いち早く現場に駆けつけ、町民の生命や財産を守るため防災活動に当たります。

また、災害が無いときでも災害が起きたときに備え日々活動に励んでいます。例えば毎年行っているポンプ操法もその一つ。団員のみなさんは、早朝や夜間、休日に訓練を実施し消防の知識や技術を習得しています。そのほか、地域の防火防災

女性消防隊も活躍

また、町には、消防団を側面からバックアップする主婦を中心とした女性消防隊も組織されており、女性消防隊は、消防団のよ

うに、実際に災害現場に向向き、消火活動を行うわけでは

消防団活動に参加を

近年、災害の多様化、大規模化、団員数の減少など消防団を取り巻く環境は変化しております。

町では、このような問題に対応するため、様々な対策をしていますが、最も、大切なのは、町民一人ひとりが、地域のため防災活動に努めていること、消防団活動を十分に理解すること、自分の住むまちは、自分で守るという気持ちを持ち、お互い協力しあっていることが重要ではないでしょうか。

- 雨どい、家の近くの排水溝を点検し、ごみや泥を除去し流れをよくしておきましょう。
- 停電なった時に備え、懐中電灯やラジオ、非常食などを準備しておきましょう。
- 緊急の避難場所を確認しておきましょう。
- 大雨が来たら
 - 外出は慎重、やむをえない場合も単独行動は避けましょう。
 - 植木鉢など風で倒れそうなものは、別の場所に移動しておきましょう。
- 雨が止んでも
 - 川では、雨が止んでからもしばらく増水していることがありますので注意しましょう。
 - 土砂崩れやがけ崩れが発生するような場所には、近づかないようにしましょう。
- その他
 - 海や山の天候は変わりやすいものです。夏休みに入り海や山にレジャーへ出かける方は十分気をつけましょう。

台風シーズン到来 大雨対策に万全を！



これから秋にかけて大雨や長雨、集中豪雨による災害が発生しやすい時期になります。

特に、台風が接近すると短時間に強い雨が降るので、浸水や土砂崩れなどの大災害が発生する可能性があります。

こうした災害から身を守るためには、日頃から、家庭や職場で災害について話し合えることが大切です。

- ① 普段の備えを
 - 日頃から、天気予報に耳を傾ける習慣を身に付けましょう。



第7分団長
丸山稔夫さん

消防団員の仕事は、災害が起きれば、現場に駆けつけ、また、災害が無いときでも、ポンプ操法訓練や、年末年始の特別警戒など決して楽ではありませんが、地域住民を災害から守る、とてもやりがいのある仕事です。

また、消防団に加入すると地域の人たちと顔なじみになることができます。

地域のために何かしたいと考えている若い人には消防団にぜひ参加して欲しいですね。



第9分団長
安藤利幸さん

消防団は、町民のみなさんの生命や財産を守る重要な役目をもっています。

消防団員は、さまざまな訓練などつらいことも多いですが、団仲間との付き合いなど楽しいことも多いです。

これからの季節は、台風による水害などが発生する季節ですので、みなさん十分注意してください。今後、私たちも少なくなるよう頑張りたいと思います。

◆問い合わせ先 町役場総務課
☎62-2111

◆問い合わせ先 町役場総務課
☎62-2111